

桜蔭俳話会 七月句会 (第三五七回)

平成二十九年七月二十三日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

- 3点 卒寿過ぎのラジオ体操アロハシヤツ ヤエ子
- 3点 黒揚羽消えていつもの壇ノ浦 才美
- 3点 梅雨出水ひとの命の分岐点 明美
- 2点①遠流地の砂に足跡浜えんどう 才美
- 2点①祭果て闇に滲みゆく名残笛 才美
- 2点①万緑の底に壊れし村ひとつ 明美
- 2点①梅雨ひでり甕のかたちの湾ひとつ 守
- 2点 白南風の少年漏らす詩語一つ 守
- 2点 洪水のあとの渇水日日草 明美
- 2点 大昼寝孤独死のこと忘れけり 守
- 2点 一匹になりし気ままや熱帯魚 守
- 2点 委員長全て包みてサングラス かほる
- 2点 解きやればほのと濡れたる祭髪 才美
- 2点 羅や訪はねば足らぬ用一つ 幸
- 2点 家ひとつ木屑に変へし梅雨出水 明美
- 1点①持ち帰る児等の朝顔仕立鉢 幸
- 1点①竹林の揺れる木洩れ日夏の蝶 友子
- 1点 木洩れ日の菩薩や祈る婆の汗 友子
- 1点 体内の水の減りゆく大暑かな 明美
- 1点 工作船の弾痕あまたはたたかみ ヤエ子
- 1点 マシーンに慣れし筋肉夏旺ん かほる
- 1点 一人だけ違ふお返事青ぶどう 才美
- 1点 涼風や不眠の脳を一撃す 友子
- 1点 健診の数値上下す夏の蝶 真壽
- 1点 仮橋を架くる大隊炎天下 明美
- 1点 炎昼や元気シニアのバスの列 ヤエ子
- 1点 花合歓の下のおしゃべり小半時 友子
- 1点 炎昼や路面いつぱいチョークの絵 才美
- 1点 天皇の祈り遠くに梅雨出水 明美
- 1点 滝見茶屋しんがりの子の肩車 守
- 1点 老いてなほ初挑戦や山登り 友子
- 1点 夏の夜やアニマルホーダーの館 かほる
- 1点 みなとより火蟻の影の発ちにけり 守
- 1点 荒梅雨や避難所隅に子等遊ぶ 友子
- 1点 カンナ赤し虚偽のあれこれオホホホ 才美

※ 絵はがきの山伏羽黒花祭

- 女子会のクローズ・タイム熱帯夜 守
- 夏草や毎朝ビール飲む老夫 真壽
- ヨコハマに連れて来られし蟻の群 明美
- 金時山の婆の味噌汁梅雨明ける 友子
- 日盛りは鳩も木陰に群れ休む 真壽
- 玻璃から落ち我に目を剥く守宮かな ヤエ子
- 引越しや往復五回梅雨晴間 かほる
- 夏休み迎へるパピウオーカー かほる
- 風鈴や父の遺品の数多し 友子
- 千人の祈雨の高校記念祭 かほる
- 草むらの水の匂へる蚩籠 才美
- みづうみは果てなき舞台みづすまし 守
- 山百合の香や息きらす登り坂 友子
- 子沢山保育士の暑気払ひかな かほる
- 白南風や集合場所のベビーカー かほる
- 巴里祭終日ラジオ唄流す ヤエ子
- はまなすの砂地を行けば碧き空 真壽
- 日雷リゾートホテルに浮くドローン 才美
- 肩寄せて葬の帰りや片蔭 守
- 赤銅色の爺ハイタツチ露涼し ヤエ子
- 苧の帯織る異人輝く眼 幸
- 「すごいね」の一言増す気夕立晴 ヤエ子
- 裏口はもう開けません凌霄花 才美
- 梅干は毎年漬けよ祖母の言 ヤエ子
- はきはきと物言う子ども夏休み 幸
- 女王花や着付大会優勝す 幸
- 伸びあがるネットの高さ瓜の花 かほる
- 玉の汗泥をかき出すポランティア 守
- 異常気象大きマスクに白緋 明美
- 義姉来たる久かたの夜や夏魚 ヤエ子
- 夏の陽に水面に沈む船の影 かほる
- 掘りたての新馬鈴薯配る誰彼に 真壽
- (欠席投句 古野明美、稲葉幸) ヤエ子

「事務局からお知らせ」

○第一二六回通信句会作品募集

夏の季語を用いた三句。締切りは八月十日（木）。
同封の葉書で送り下さい。

○八月は、句会は休みです。

○九月句会

九月二十四日（日）、午後一時から、旭区民文化
センター（サンハート）で行います。
兼題は、「秋場所」

○十月句会

十月二十八日（土）、都筑区の大塚歳勝土遺跡で
吟行。その後、横浜市歴史博物館の会議室で句
会を行います。詳細は、後日、お知らせします。